

(様式2)

## 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・31〉	いわき市立	植田	中学校
〈実施日〉	平成 28 年 5 月 10 日 ( 火 )			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は( )に教科等を入れてください。			
1 理科	② 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ( )	
〈実践内容〉	<p>日常の放射線量について考える授業を行った。</p> <p>地面から低いところと高いところ、土とコンクリートなど、様々な所で放射線計測をしたときの放射線量の違いについて気づかせ、どのような場所で放射線量が強くなっているのかを班ごとにまとめる。さらに、学級で共有させ、放射線量について理解を深める。</p> <p>また、放射線量について触れ、飛行機に乗ったときや、レントゲンを撮ったときに体を通過する放射線量などを比較し、日常の中に放射線というのは存在していることを気づかせる。</p> <p>常磐自動車道で、浪江町付近を通過するとき、どれくらいの放射線量を浴びているのかを少し考えさせ、放射線について理解を深めた。</p>			
〈成果〉	放射線についてある程度の理解を子どもたちはできたと思う。その後、生徒たちから、「放射線量について理解することが必要であることが分かった」などという感想が寄せられ、成果が得られたと思う。			
〈課題〉	いわき市に住み、震災を経験したにも関わらず、まだまだ生徒たちの中で、放射線についての理解が不足している部分が多いことに気づいた。放射線について何も分からない生徒にも分かるような授業が今後必要になってくると感じた。			
資料作成担当者職 ( 教諭 ) 氏名 ( 原田 聡 )	学校電話番号 ( 62 - 3521 )			

### 【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。  
(送信先: [kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp](mailto:kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp))